

I 実践

1 研究主題

「互いに認め合い、励まし合い、助け合うことのできる児童の育成」

(1) 主題設定の理由

本校は、「ふるさと山部を愛し 心豊かに たくましく生きる山部っ子の育成 ーかしこく、なかよく、たくましくー」を学校教育目標としている。児童の半数近くは、祖父母と同じ敷地に居を構え、祖父母と関わりをもつ機会が多い。祖父母との関係などから、地域の人と交流をもつこともある。児童は明るく素直で、高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見ている。しかし、少人数のため、集団生活の中で甘えが出て、自己中心的な言葉や行動をとってしまう児童もいる。また、本校は、複式学級4クラスでクラス替えもないため、友人関係が崩れてしまうとなかなか修復が難しい。小学校を卒業後は人数の多い中学校へ進学することを考えると、集団の中で、思いやりの心をもって誰とでもなかよく生活できる児童の育成が必要である。

そこで、学校の教育活動全般の体験や交流を通して、本校のめざす児童像である「明るく、思いやりのある子ー互いに認め合い、励まし合い、助け合う子ー」の育成を目指して本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 総合的な学習の時間、特別活動、道徳を中心とした全教育活動における人権教育の充実
- イ 異学年との交流活動
- ウ 豊かな体験活動の展開

総合的な学習の時間 介護施設訪問



2 実践内容

(1) 総合的な学習の時間、道徳、特別活動を中心とした全教育活動における人権教育の充実

ア 総合的な学習の時間の実践

・「ともに生きるーお年寄りの方々とふれあおう」をテーマに、地域にある介護施設を訪問した。歌や劇を披露し、お年寄りの方々に大変喜んでもらった。体の不自由な方々とのふれあいを通して、ともに生きるという気持ちをもつことができた。

(3・4年)

・今年度は、低学年ブロックもメディア教室を行った。専門家から情報に関わるトラブルの事例や回避策を保護者とともに学ぶことができ、情報モラル教育の充実が図られた。

(全児童、保護者)



メディア教室

イ 人権教育を取り入れた道徳授業の展開

道徳授業の中で、人権教育にかかわる内容を取り上げ、授業参観で公開した。保護者や地域の方が来校しやすいときに行い、人権教育の啓発に努めた。両親が来校し、授業参観している家庭もあり、効果的だった。

ウ 人権教育を考えた学級経営

互いのよさを認め合える場を各学年で設定し取り組んだ。1年では、「友達のいいとこみつけた」を実施し、一人一人のがんばりや優しさ等を見つけ発表し合った。

(1年)



いいとこみつけた

エ 児童集会 (ハートフル集会)

運営委員会の児童が中心となって、いじめを防止する意識を高めるための集会を行った。最初に、学級ごとに話し合ったいじめ防止の標語を発表した。次に、運営委員による絵本「わたしのせいじゃない」の読み聞かせが行われた。いじめは、自分の身の回りで起こりうることであることとらえ、普段使うことばに気をつけたいという感想が聞かれた。

(2) 異学年との交流活動 (たてわり班活動)

児童を4つのたてわり班に分け、年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって、異学年児童相互の親睦を深め、他者への思いやりや助け合う心を養うことを目指した。

ア ドッジボール大会

異学年集団で活動することにより、互いに協力し合い、仲よくしようとする気持ちを育ててきた。上級生は、下級生もゲームが楽しめるようにボールを回したり、優しく投げたりと、相手を思いやる優しい行動が見られた。

イ 愛校活動

たてわり班ごとに、週1回特別教室を清掃している。上級生が、下級生の面倒をみ、やり方を教えながら自分たちの学校をきれいにすることができた。学校の周りもきれいにしようと正門前の道路の落ち葉掃きも行った。

ウ 山部ふれあい運動会

綱引きやリレー、玉入れなどたてわり班対抗の種目があり、班長が中心になって取り組んだ。下級生に対する配慮や上級生に対する感謝の気持ち等、班が一丸となって活動したり応援したりする姿が見られた。

エ なかよし給食

年三回の実施を通して、たてわり班や他の学年の児童、担任外の教師との親睦を図った。いつもとちがう場所や学年の違う友達との話が弾み、楽しく会食することができた。上級生が下級生の給食や机を運ぶ等、よく面倒を見る姿が見られた。

(3) 豊かな体験活動の展開

ア 山部ふれあい運動会

来賓・敬老玉手箱で、地域の高齢者や招待した介護施設の高齢者に、児童が書いた手紙を添えて、育てた花の苗をプレゼントした。全児童で一人一人に手渡すことで、来校した高齢者との交流を図ることができた。手をつないだり、話をしたりして、高齢者に対する気配りが見られた。

イ やまびこフェスティバル（三世代交流）

保護者や地域の方々と一緒に、普段交流できない外国の方々との交流活動をした。ガーナ・ベトナム・中国・ポーランドと各ブースを回って、それぞれの国の音楽・遊び・切り絵等を体験した。いろいろな国の方と触れ合う楽しさやその国の文化の素晴らしさを感じることができた。

ウ いのちの教室（4年）

助産師さんによる「いのちの大切さ」についての話や母親から自分が生まれたときの話を聞いた。自分が大切な存在だということや自分以外の人も大切な存在であることに気づくことができた。

エ 動物ふれあい教室（1・2年）

自分や友達、さらに犬の鼓動を聴診器で聞いたり、犬の体に触れたりした。動物も自分たちと同じように鼓動を打ち、同じように生きていることを感じることができた。

ドッジボール大会



たてわり班つなひき



山部ふれあい運動会



やまびこフェスティバル



いのちの教育



動物ふれあい教室



3 成果

- (1) 総合的な学習の時間や道徳、特別活動等を通して、自分の生活を振り返り、自分自身や友達について考える児童が増えている。
- (2) 異学年集団の活動を通して、互いに認め合う気持ちや励まし合う態度が見られた。高学年の児童が低学年の児童を気遣う優しさが育ってきている。
- (3) 様々な体験活動を通して、高齢者を始め、いろいろな人とふれ合うことができた。そのことによって、相手を思いやる心や命の大切さなどを学ぶことができた。

II 今後の課題

小規模校で児童数が少ないため、教師が様々な人権問題について児童に知らせていく必要がある。そのため、教師の人権教育に関する正しい理解と認識を高めるための研修を充実させ、家庭や地域の方々との連携の仕方や人権コーナーの内容の工夫を通していきたい。また、より人権教育の啓発に取り組んでいけるようにしていきたい。

III 人権コーナー設置について

人権メッセージを掲示し啓発を図っている。母親から子へ、友達から友達へ、自分自身を振り返るものと様々なメッセージが寄せられた。メッセージに関心を寄せ、読んでいる児童や保護者の姿が見られた。

人権コーナー

